

=====

<水球陣>七帝戦第一日目

H28.8.20 @青木町公園総合運動場市民プール

七帝戦一日目予選リーグは順に、京都大、大阪大、東北大、九州大と対戦した。七帝戦二連覇に向けてすべての試合に勝利し、全勝で二日目に向かいたい。

対京都大

東大 8 1 計9

京大 2 1 計3

得点者：石田(1)、細江(2)、山田(4)、池亀(1)、根東(1)

開始早々、カウンターで山田が泳ぎこみ先制点を挙げると、勢いに乗って東大は連続得点して点差を広げる。しかし前半終了間際に2点を返される。後半は泳ぎあいが続き、退水からのコーナーのピンチにさらに一点返されてしまうが、終盤に根東が追加点を挙げ、東大が勝利した。

対大阪大

東大 4 7 計11

阪大 0 0 計0

得点者：石田(1)、岡(4)、細江(1)、小池(1)、山田(3)、池亀(1)

中盤になって山田が誘発した退水時に岡がハンツァーを決め、先制する。そこから更に連続得点し、前半終了間際、藤目のパスから岡がこの試合3回目の得点を挙げる。後半も序盤パスカットからシュートを決めたのを発端に次々とシュートを決め、阪大には一得点もさせずに東大の勝利となった。

対東北大

東大 5 7 計12

東北大 1 0 計1

得点者：谷口(3)、山田(4)、鈴木(1)、川島(3)、吉田(1)

序盤攻めあぐねるも、中盤こぼれ球を山田が押し込んでから東大は次々と得点して4点差とする。が、相手に5mシュートを決められる。しかし前半終了間際に退水のチャンスに追加点を挙げる。後半は終始相手に泳ぎ勝って得点を挙げ続け、11点差で東大は勝利した。

対九州大

東大 15 計6

九大 00 計0

得点者：石田(1)、岡(1)、谷口(1)、山田(2)、池亀(1)

序盤互いに得点することができずに膠着する。それでも前半終了間際、池亀が強烈なミドルシュートを決め、先制点を挙げる。後半、谷口の得点からの連続得点と相手に得点させない固い守りによって、東大は相手を圧倒し続け、東大の勝利となる。

ゲリラ豪雨がたびたび襲い来る中での試合だったが、自分たちのペースでどの試合も少ない失点で終えることができ、二日目に向けて他のチームに比べ、疲労の少ない状態で一日目を終えることができた。明日は名古屋大との予選リーグの対戦の後、順位決定戦である。この勢いのまま優勝を目指す。最後になりましたが、応援に来てくださった

(文責 鈴木陽介)

=====

<水球陣>七帝戦第5戦

H28.8.21 対名古屋大学 @青木町公園総合運動場

東大 4 4 計8

名大 1 2 計3

得点者：細江（1）、山田（4）、岡（3）

総当たり戦の最終試合、名古屋大学との一戦。東大としてはこの試合に勝ち、予選全勝を達成したうえで、自信をもって決勝戦に進出したい。

第1ピリオド

開始直後、山田のパスインを受けた細江がフローティングからシュートを決め、先制点を奪う。相手からのカウンターで1点を失うも、東大はカウンターを中心に、山田、岡が順調に得点を重ね、4-1で第1ピリオドを終える。

第2ピリオド

東大は序盤、石田の退水からピンチを迎えるが、ここは山田の見事なシュートブロックで切り抜ける。第2ピリオドも、先制点を奪ったのは東大。細江からのパスを受けた山田が落ち着いてシュートを決める。その後も東大は積極的にカウンターを出し、4連続得点。一気に名大を突き放す。その後、相手に2点を返されるも、比較的余裕をもって勝利をおさめた。

東大はこの試合、常に主導権を握り、危なげなく勝利をおさめた。また、この試合に勝ったことで、東大の予選一位通過が決定。最高の形で七帝戦二連覇に王手をかけることができた。最後になりましたが、監督を務めてくださった疋田さん、忙しいなか応援にいらしてくださった洲鎌さん、有吉さん、大脇さん、競泳陣の方々、ありがとうございました。

（文責 荒川祥吾）

<水球陣>七帝戦第6戦

H28.8.21 対九州大学 @青木町公園総合運動場

東大 2 1 3 3 計9

九大 2 1 1 3 計7

得点者：池亀（1）、石田（1）、細江（2）、山田（3）、岡（2）

七帝戦決勝。相手は九州大学。1日目に無失点で勝利した相手とはいえ、手強い相手である。四年生にとってはこれが実質的に引退試合となるので、この試合に勝利して七帝戦二連覇を成し遂げ、有終の美を飾りたい。

第1ピリオド

ピリオド序盤、東大は細江の退水からピンチを迎えるが、宮内の好セーブによりこれを切り抜ける。両者なかなか点が入らない状況が続く中、宮内が弾き出したこぼれ球を強引に押し込まれ、九大に先制点を奪われる。さらに、中盤に九大のドライブから得点を奪われ、連続得点を許す。何とか追いつきたい東大は、山田がフリースローから直接ミドルシュートを決め、一点を返す。宮内が好セーブを連発し、九大の攻撃を堪え凌ぐ中、終盤で岡が鮮やかなバックシュートを決めて、このピリオドは2-2の同点で終了する。

第2ピリオド

開始直後、岡が退水を誘発して、東大にチャンスが訪れる。山田からのパスインで岡がシュートを放つもキーパーに阻まれ、得点とはならない。一方の九大はフローティングからシュートを決め、またしてもピリオドの先制点を奪う。試合中盤、相手のゴール付近でのカットに成功した山田が、そのままボールを運び得点、同点に追いつく。その後は、一進一退の攻防が続き、3-3で前半が終了。

第3ピリオド

接戦を繰り広げる東大と九大。両者共に拮抗し、得点が決まらない状況が続く。この状況を打破したのは主将の池亀。九大の退水からミドルシュートを決め、渾身のガッツポーズを見せる。勢いに乗る東大は、九大に1点の追加得点を許したものの、石田、細江がシュートを決め、このピリオドで勝ち越しに成功する。

第4ピリオド

東大の2点リードで、最終ピリオドへと突入する。開始直後、梶原のパスを受けた岡がフローティングからシュートを決める。九大も負けじと退水セットから得点を奪い、東大についていく。中盤、池亀からのパスを山田がハンツで決める。続く退水セットで、細江が再びハンツを決め、九大を突き放す。終盤では東大からの王座奪取に燃える九大が執念の2連続得点を挙げるも、東大が逃げ切って、9-7で試合終了。

